

四谷の

千枚田だより



第 256 号



令和六年を振り返って

記憶を記録に：

一月元日 能登半島地震。十六日 鳳来寺小「田お起こし&田んぼ飛び」。

二十一日 宮崎参議院議員訪問「施設再整備の要望」。二十八日 「直払い生産活動」草刈り。二月八日 「つなぐ棚田遺産感謝状贈呈式(株)横浜ゴム新城工場に贈呈」市役所にて。

二十二日 直払い主催「稲作勉強会」講師「愛知東農協。二十五日 「ヤマアカガエル産卵」横浜ゴム管理のビオトープで移植三年目の成果。二十六日 施設再整備のヒアリング。

三月十四日 「四谷の千枚田地域振興協議会」市民センターほうらい。二十五日 丸八製菓より「豊橋まつり売上金寄付」保存会・コメ出荷報奨金として配布。四月三日 横浜ゴム新城工場「新人幹部研修」受け入れ。二十三日 「仏法僧初鳴き」。五月五日 長篠合戦のぼりまつり「タニシ」奉納。九日、豊橋調理製菓専門学校「田植え(社員研修を兼ねて)。十四日 農水省 篠崎課長補佐来訪 千枚田の概要及び施設再整備の依頼など。同日 鳳来寺小学校 代掻き。十六日 「豊かなむらづくり」(農水省リポート発表)於：市民センターほうらい。

十八日 「ホンジカが早苗を食い荒らす被害発生。二十三日 「豊かなむらづくり」現地審査会。六月一日 「お田植え感謝の夕べ」約四百人で賑わう。十四日 鳳来寺小の代掻き。六日 豊橋調理製菓専門学校の田の草取り(例年は梅取りを行ったが不作のため中止、身平橋集会所で獣害の現状PPTで学習)。十六日 主催市立鳳来寺山自然科学博物館「四谷の千枚田の生きもの観察会」(四十名参加)。同日 進藤金子子参議院議員訪問「施設再整備の要望」。十七日 鳳来寺小の田植え。二十日 モリアオガエルの産卵。七月六日 直払い生産活動。十一日 アフリカ地域農学研究生の受け入れ(八名)CIS。十二日 中部環境五市サミット「多治見に参加。十三日 千枚田にリアル案山子設置(八雲だんご・チームTAKO)。二十五日 自民党政務調査会依頼の第六期に向けた「中山間地域等直接支払制度」のアンケート(耕作者の立場として)提出。八月一日 第七回四谷の千枚田絵画コンクール(小・中学生対象 作品募集は九月三十日まで)。三日 この頃まったく雨が降らない、猛暑続く。五日 午後雷雨 水不足解消。七日 千枚田の各所にサルの大群侵入 被害続く。

二十三日 サル対策として「爆音機」購入 十王堂・細尾前に設置。三十一日 台風十号の影響で大雨 千枚田 ナイヤガラ の滝模様。九月四日 「みんなで地域農業の将来を考えよう」市職員・四谷区長・地域担当農業委員・直接支払制度四谷集落構成員を交えて意見交換。十三日 横浜ゴム主催 生物多様性活動の一環とした外来植物「アメリカセンダンソウの駆除作戦」市職員、奥三河環境ネット、東海農政局等参加。十五日 ヤマサちくわ稲刈り(社内研修)。十九日 鳳来寺小の稲刈り。二十一日 愛知東農協「子ども農学校の稲刈り」。二十八日 新城市功労者表彰(団体)感謝状拝受。十月六日 台風十号により仮設トイレの水源が様変わり、導水不可のため四阿付近の沢から導水。十日 豊橋調理製菓専門学校脱穀。十四日 八雲だんごにコメ出荷。十五日 総合的な学習「見つけよう！新城のステキ」千郷小学校三年生四十名。十七日・十八日、全国棚田(千枚田)サミット「上田市保存会六名参加。二十日 秋の環境整備活動(奥三河トトレランを視野に)。二十一日 テレビ朝日「人生の楽園」ナレーター西田敏行死去のため、翌月九日に放送延期。二十三日 横浜ゴム新城工場 地域貢献の一環としてトトレランに向けた沿道整備活動(九名)。二十四日 「四谷の千枚田絵画コンクール」審査。二十七日 奥三河トトレラン(参加選手約三百人)エイドステーション運営 四十名出役。二十九日 「あいちのトビラ」更



新(写真提供)愛知県庁広報広聴課。十一月三日 直払い生産活動。同日 大阪万博展示提供の打診。パンフレット簡易版展示予定。十一日、愛知県ふるさと・水と土指導員全体会議(登録指導員二十三名)於：稲武どんぐり工房。十四日 「豊かなむらづくり」東海農政局長賞授賞式(愛知県新城設楽農水事務所)。二十三日・二十四日 「四谷の千枚田盛り上げ隊」丸八製菓社外店舗で開催 賑わう。十二月八日 「収穫感謝祭」 遠く山が吹雪く寒空の中、参加者の心は熱く、師走の一日を満喫した。十四日 鞍掛山わずかに雪化粧。十七日 鳳来寺小四年生・五年生 田起し&田んぼ飛び。

四谷の千枚田で「たんぼとび」

鳳来寺小の児童ら

山村ならではの「遊び」楽しむ

新城市の四谷の千枚田の石積み棚田で十二月十七日、市立鳳来寺小学校の四、五年生十五人が米作りの準備に合わせて「たんぼとび」を行った。山村ならではの遊びで参加した子供たちは口々に楽しいと喜んで



米作りの準備に合わせて開催

たんぼとびとは、棚田の中段の高いところから一気に下段までかけ降りる遊び。子どもたちは、下り方を考えながら棚田を登り、スタート地点に到着。合図で一斉に駆け降りた。



石垣を次々に飛ぶ子、慎重に降りる子などさまざまだが、全員無事にゴールイン。

米作りを指導している小山舜二さん(八十四)はこの遊びを始める前「ワイルドな取り組みで思い出作りの一つ。自分のペースで怪我のないように」と注意を呼びかけた。ゴールの後、小山さんを交え、全員が石垣を跳んだ。普段は静かな棚田に子どもたちの歓声が響いた。この後子どもたちは、今年収穫した米でおにぎりを作り、小山さんにプレゼントした。

参加した一人、四年生の伊藤史音さんは「何度も足をひねって痛かったけど、楽しかった」と笑顔を見せた。同じ四年の中尾美乃里さんは

「たんぼとびの競争では負けただけ楽しかった。来年もできるので楽しみ」と笑みがこぼれていた。

鳳来寺小は統合前の旧連谷小のころから、小山さんの指導で約百平方メートルのたんぼで米作りをしている。この時期は来年の米作りに備え、田起こしが欠かせない。四、五年生が田起こしをした後、たんぼとびを楽しんだ。たんぼとびは小山さんの提案で、子どもたちの遊びを、今の子どもたちにもやらせたいと、2006年から続けている。

東日新聞(12月18日)掲載

朝の叢策

野生の天国ニホンジカ編

十二月二十四日、朝の散策時、千枚田の古宿の踊り場で三十頭余のニホンジカ(以下シカ)の群遊を目撃。筆者に驚いたシカ群は一気に堂久保を駆け降りた。その群れは大林の「むくろぎ」で再び出くわしたが、群れは高畑林道へ逃亡?

昨年は千枚田の多くのたんぼでシカの侵入、被害に悩まされ、シカ、サル対策に爆音機まで設置、対策を講じた。

シカは平成十七年に与良木峠で目視、以来、南下、拡大の一端を辿った。来遊した当時はイノシシほどの被害もなく「〇〇のたんぼに入ったゲナ:」程度であったが、集落の住民が優しく、畑に野菜や梅、栗、花木を植えている。シカたちには豊富な餌を作って頂いていると勘違い、有難く頂戴していたものの、個体数が拡大、一昨年頃からは餌不足

から彼岸花の葉や道路のアスファルトに生えるコケまで食べ、空腹を凌ぎ、それでも我慢ならず、たんぼの稲穂を食味したところ、美味く、欲が絡み、稲架干しの稲まで失敬、これがバカ旨いのが解ってしまったようである。(食性の進化)

今日は七日正月、今のところシカの目視はない、もう、四谷の洞にはネギもニンニクも何も食べるものはない、安住の地を探し求め、平和な暮らしをしてほしい...と願う。

そうそう、山を越えた入洞集落は害獣対策で栗や野菜は作っておらず、行っても無駄だぞン:..

知つ徳 ○生態や特徴 雄はツノがある。夏毛の白い斑点や大きな尻斑が特徴。繁殖期を除き、雄と雌は分かれており、交尾期の秋には雄は特有な鳴き声を発する。雌は一年半で成熟、約二百二十日(五月から七月)で一頭を出産。食性は有毒なシキミやアセビ以外は食べる。牛やヤギと同様に反芻動物(四つの胃)第一胃「ミ」第二胃「ハチノス」第三胃「センマイ」第四胃「ギアラ」で二〜四時間ごとに食べたり休んだりを反芻する。

○令和五年度鳥獣種別の被害金額については、イノシシ(被害額三十六億円)、シカ(七十億円)、クマ(七億円)となっている。(農水省)

行 令和七年一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二